

# 会 議 録

平成18年11月30日調製

審議会等名	平成18年度 第2回社会教育委員会議		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成18年11月6日(月) 午後1時30分～3時40分		
開催場所	三条市中央公民館 講義室	傍聴者	無
出席者氏名	社会教育委員 丸山照子委員 小菅 信委員 兼古和枝委員		
	広川邦夫委員 佐藤洋一委員 中村保夫委員		
	橘 耕司委員 横山正美委員 阿部凉子委員		
	安藤正之委員		
	教育委員会	松永教育長 金子生涯学習課長	
		原生涯学習課課長補佐 近藤生涯学習係長	
		石田囑託員	
		(欠席者：広部隆司委員 岡田竜一委員 樋口一三委員 今井榮作委員)	
報 告	(1) 関東甲信越静社会教育研究大会について		
	(2) 全国社会教育研究大会について		
議 題	(1) 地域の教育力再生、学校・地域・家庭との連携の方策について		
	・ 地域の大人による子どもの居場所づくり		
	・ 地域子どもふれあい教室の推進などについて		
	【現 状】		
	● 子どもの安心安全な遊び場・居場所の現状		
	● 少子化、核家族化による子どもの人間関係形成能力が不十分		
	● 家庭・地域の教育力の低下		
	【ねらい】		
	○ 子どもの安全安心な居場所づくり		
○ 地域・家庭の教育力の活性化			
○ 地域の大人と子どもとのふれあい			
発言内容等			
金子課長	定刻になりましたので、これより会議に入りたいと思います。広川議長より進行をお願いいたします。		

広川議長	<開会のあいさつ>
松永教育長	<教育長あいさつ>
広川議長	では、次第に従いまして、報告から始めます。 まず、「(1)関東甲信越静社会教育研究大会について」です。分科会「生涯学習によるコミュニティづくり」の発表を担当していただいた佐藤委員から一言お願いしたいところですが、少し遅れるとのことですので、先に(2)の全国社会教育研究大会について、参加していらした安藤委員からお願いします。
安藤委員	10月19日・20日に富山県富山市で行われ、約1500名の参加がありました。社会教育委員だけでなく一般からの参加もあったようです。現在、社会教育委員は全国的に元気がなく、法に基づいた意識付けが必要だという話が出ていました。参加の年齢層が高く、杖をついた90歳代の方がいらっしゃったりして驚きましたが、反面、私の世代はまだまだ若輩者で、もっともっと勉強(学習)が必要なのだと感じさせられた研究大会でした。
広川議長	それでは、議題に入ります。 議題(1)「地域の教育力再生、学校・地域・家庭との連携の方策について」です。まずは、事務局より説明をお願いします。
金子課長	<議題(1)『地域の教育力再生、学校・地域・家庭との連携の方策』について資料に基づき説明>
原 補佐	<『つくしっ子クラブアンケート』及び『新潟市ふれあいスクール見学』について資料に基づき説明>
広川議長	ありがとうございました。佐藤委員がお見えですので、「関東甲信越静社会教育研究大会」について報告をお願いします。
佐藤委員	第1分科会の発表で参加しました。「ますがたクラブ」と「つくしっ子クラブ」の立ち上げや運営について話してきましたが、時間が足りなくて思っていたことの70%位しか話せませんでした。両者は最初の立ち上げ方から違ってきます。立ち上げにはマニュアルはありますが、マニュアルどおりではうまくいきません。その地域やグループに合うように、いろいろな関わりや関係の中でタイミング良く対応しなければならない。最初は行政からの支援を受けたとしても、やがては独立すべきものだから、何よりも「自分たちがやるんだ。」という気持ちが必要ではない。行政は、グループが独立して継続して行けるように、そのリーダーを見定め、バックにいる人々を見越したうえで対応していくことが大事だ。ということをお話してきました。
広川議長	細くても長く続けることが大切ということですね。

	<p>前回の委員会で「つくしっ子クラブ」を視察しましたが、それについての意見や感想を皆さんに順番にお聞きしたいと思います。</p>
兼古委員	<p>「つくしっ子クラブ」は素晴らしいと思いましたが、それがどの学校でもできる訳ではありません。現代に思うことは、どうしてこんなに手をかけなければ子どもは遊べないのかということです。</p>
小菅委員	<p>すばらしい施設だと思いました。これからは、そこに携わる指導者のリーダー・サブリーダーの養成を行っていった方が良いのではないかと思います。</p>
丸山委員	<p>施設に恵まれていると思います。私はスタッフの一人として参加していますが、子どもたちを見て思うことは、現代は、親の目や手が行き届きすぎて、自分でできるものもしない傾向にあるということです。そこが心配です。</p>
橘副議長	<p>本来であれば、子どもは祖父母・両親と一緒に暮らせば良いと思うが、現代は、大きな家があっても、若夫婦はアパート等を借りて核家族で暮らすようになっている。そんな社会状況なので、このようなクラブが必要になるのだなと思いました。</p>
中村委員	<p>昔の社会は、大人も子どもも、それぞれが自然に仕事や遊びをして過ごしていたが、現在はそれができない状況になっているので、何らかの形でせざるを得ないのだと思う。それは、子どもたちのためでもあるが、大人のためでもあるので、参加する大人たちがまず楽しく、この地域を何とかするんだという気持ちを常に持ちながら、継続してやっていくことが大事と思う。</p>
横山委員	<p>下田地区に置き換えて考えてみると、果たして、地域やスタッフにどれだけ理解してもらえるか。いかに継続していくのが課題だと思いながら見てきました。</p>
阿部委員	<p>確かにすごく良いクラブだと思いました。ただ同時に、子どもにとって、これは良いのか、幸せなのかという疑問も残りました。本来、子どもは自然に遊びを見つけて遊ぶのだと思うが、このように与えられた遊びで満足するのだろうか。</p> <p>また、学校週5日制は、家庭に子どもを戻す時間だったはずなのに、それはどうなったのか。ともあれ、そういうクラブを実施せざるを得ないのであれば、月岡の「つくしっ子クラブ」に限らず、全市的に実施して欲しい。</p>
安藤委員	<p>上林小学校では、地域の部屋があり、土曜日はウィークエンド・サークルを作って活発に活動しています。また、ひまわりコミュニティでは、子どもの居場所づくりについて、石上児童館との連携等をどうするか議題に上がっています。</p>
広川議長	<p>「つくしっ子クラブ」は月岡小学校を利用していますが、三条市外を見ると、公民館やコミュニティセンター等を利用しているところもあるよう</p>

	<p>です。公民館の教室・講座形式のように、興味あるものを選択し受講して過          ぎすことも一つの方法ではないかと思えます。</p> <p>いろいろな意見が出ましたが、それらに関係すること、また、違ったこと          でも良いので、ご意見・ご質問がありましたら、ご発言をお願いいたします。</p>
阿部委員	<p>つくしっ子クラブのアンケート調査の対象は、利用者である子どもとその          保護者になっていますが、スタッフの声はどうなのでしょう。</p>
原 補佐	<p>先日の、「新潟市ふれあいスクール事業・わくわくランド」視察の反省会          の中で出た意見として、開設して2年目以降に出てくる慣れ等についてどの          ように対応していくのか課題としています。</p>
阿部委員	<p>新潟市の「わくわくランド」は代表者が PTA となっていますが、「つくし          っ子クラブ」では PTA はどれくらい関わっているのですか。</p>
原 補佐	<p>およそ、40名中4名です。</p>
安藤委員	<p>確かに、PTA の戦力が少ないのは認めます。ただ、気持ちはあっても、          働き盛りの年代で時間が取れないのが現状です。そのギャップをどうクリア          するかが課題だと思っています。ウィークエンド教室で気づくのは、最近、          隣接学区の子どもたちが入ってきていることです。市のスポーツ少年団等、          横のつながりでやってくるようですが、それらの子どもたちは何かあった場          合の保険対象になっていないので心配です。つくしっ子クラブでは、そのよ          うなことはありませんか。</p>
原 補佐	<p>クラブを立ち上げる前は、そのような心配もしましたが、幸い、現在のと          ころ、学区内だけで収まっています。</p>
佐藤委員	<p>「ますがたクラブ」は他学区も良いことにしています。利用者には、年会          費500円と傷害保険に入ってもらっています。</p> <p>とにかく、このようなクラブの立ち上げで一番問題なのは、学校施設の開          放です。国も県も推進しているのだから、開放してくれば良いのに、なか          なかうまくいきません。何とかならないものなのでしょうか。</p>
松永教育長	<p>確かに、文部科学省と厚生労働省は、放課後対策の連携事業として「放課          後子どもプラン」を推進しています。ただ、都会と三条市では状況が違って          いるので、全く同じことができる訳ではありません。現在、三条市内の学校          で空いているように見える教室も、実際は少人数授業で分かれる際に使った          りしています。今後の方向としては、まず、児童クラブがない学区を優先に          やっていきたいと思っています。</p>
広川議長	<p>他にご意見等はありませんか。</p>
阿部委員	<p>私たち社会教育委員は、そのようなクラブ立ち上げの発起人になることを          求められているのでしょうか。</p>
広川議長	<p>社会教育委員として、地域との関わり、行政との関わりをどうするかです</p>

	ね。
阿部委員	社会教育委員以外の立場で学校と話したことがあるのですが、地域の協力は必要ないということで断られた経験があります。具体的にどうすれば良いのでしょうか。
金子課長	こちらから、こんなことをしてくださいというのではなく、委員の皆さんから、こんなことをしたい、あんなことと関わりたいと言って頂いた方が有難いです。何事も新しいことを始める際に一番難しいことは、地域の理解を得ることのようです。
小菅委員	先頭に立って作れば良いという訳ではなく、構成員あるいは運営委員の一員として関わっていくのも良いのではないのでしょうか。
兼古委員	各小学校には、地域子どもふれあい教室が必要かどうかのアンケートは実施したのですか。
金子課長	各学校長にはアンケートを行っておりますが、PTA に対しては実施しておりません。
松永教育長	PTA や地域から、児童クラブの要望がある場合が多いです。
兼古委員	現場の声を聞いてみないと、その必要性や手伝ってくれるスタッフがどれくらいいるのかわからないので、まずは PTA 要望などの調査からスタートすべきではないのでしょうか。
安藤委員	私もそれが一番だと思います。会議の席上でいくら話し合っても、現場を知らずに進めては何も変わらないし、伝わらない。書面でアンケートをとることも良いですが、会議のメンバーがそれぞれのバックに持っている地域やグループの意見を吸い上げて来なければならぬ。現場に携わる人間の生の声を聞かなければ意味がないと思います。
佐藤委員	社会教育委員としてどう関わるかについてですが、私は行政とのパイプ役になってほしいと思います。常にアンテナを張って、地域にどんな人材がいるのか把握し、行政の相談相手になれば良いかと思います。
橘副議長	旧下田村での役割は、社会教育についての事業計画と報告の年2回程度の会議で、何かしなくてはならないという訳ではありませんでした。私としては、今日の会議も社会教育委員として自分たちの資質を高める研修のようなものだと思っています。
松永教育長	県や市によっては、学校教育に限って教育委員会に置き、社会教育や社会体育は市長部局に組み込んでいるところもあります。 社会教育委員の皆さんに対するこちらの願いは、皆さんがそれぞれの分野で専門的に持っていらっしゃる良いところを教えていただき、それをうまく取り込んで、三条市の行政に反映させてもらえればと思っています。
広川議長	他にご意見等はありませんか。

横山委員	放課後子どもプランの存在は、学校には知られているのかもしれませんが、私を含め一般の人には詳しい内容も存在も知られていないと思います。
	もっと情報提供してPRしてほしいです。
金子課長	<放課後子どもプランの概要（国）について説明>
	三条市では、学校施設を使用して実施しなさいという国の基本に添って、開設していきたいと思っています。「学びの場」「体験の場」「交流の場」「遊びの場」「生活の場」を毎日開設するのが望ましいとされていますが、都会とは状況も違いますし、どれくらいのボランティアから協力してもらえるのかわからないので、まずは「つくしっ子クラブ」のように、毎日というのではなく、曜日と時間を限って、できることから実施していきたいと思っています。
松永教育長	現在、家庭状況により、学習に格差が出てきている面もありますので、宿題等の面倒を見る公共の場を設けたいというのも理由の一つにあります。
	三条市には退職教員が大勢おり、現在、防犯パトロール等にも協力頂いておりますので、「学びの場」でも協力してくれるものと期待しています。
阿部委員	現在は、手を上げた者勝ちになっているような風潮があると思う。面倒くさがる人や地域は負け、勉強熱心でいろいろな制度を知っていて、それをうまく活用する人や地域は得をしているような気がしてなりません。
	制度を広く広めてくれる人、コーディネートしてくれる人が必要ではないでしょうか。
松永教育長	「放課後子どもプラン」に限らず、さまざまな事業・行事の広報については、「広報さんじょう」や「子ども情報誌この指と～まれ」でお知らせしているのですが、なかなか見てもらえない現状もあります。しかし、そうも言っていないので、何らかの方法でまた広報していきたいと思っています。
中村委員	「放課後子どもプラン」を公民館活動と連携して行うのはどうなのですか。
金子課長	確かに、そのようにして行っているところもありますが、三条市としては、基本的には学校でできればと思っています。
広川議長	他にご意見等はありませんか。
兼古委員	児童クラブの担当職員に異動があるとは知りませんでした。以前、裏館小学校の児童クラブ開設に伴って、ふさわしい人はいないかと相談を受けましたので、学区内のふさわしい方を推薦したのですが、数年経って異動になってしまいました。地域の方が入ることによって、横のつながりもあり、ボランティアも集めやすく、活動が順調に流れていましたし、これからもっと期待できる場所だったのに、それが途切れてしまい残念でした。このような形態はどうにかならないものなのでしょうか。
安藤委員	小学校に配置されているスクールアシスタントも同じようなことになるのですか。

松永教育長	スクールアシスタントについては、基本的に異動はありません。ただ、人数調整の関係で異動になることはあります。例えば、今まで3人の配置だった学校が次の年から2人に減少したりするときに、1人の方を他の学校へ配置することはあります。
	児童クラブの運営については、社会福祉課の担当ですので、こちらで直接対応できませんが、今回のお話があったことを担当に伝えたいと思います。
	はい、本日はたくさんの意見が出ました。これらの意見を整理して、焦点を絞り、また次回に話し合っていきたいと思います。
広川議長	<会議録調整に関する確認事項の読上げ>
	本日はどうもありがとうございました。これで、第2回社会教育委員会議
	を終了いたします。

15:40閉会